

科学的探究力、人間力、自己表現力、国際感覚の育成をめざす

科学わくわく広場

日時：平成19年9月8日(土)～9日(日)

会場：市民ギャラリー「ルフレ」

参加生徒：理化部の生徒10名(2年生6名、1年生4名)

内容：小学生対象に『きれいな色のスライムをつくる』、『カライドサイクル』の実験指導を行う。

2日間とも大変盛況で、それぞれ50名以上の小学生が参加しました。本校の生徒達は、どうしたら相手がわかってくれるかを工夫し、模索しながら、小学生達に熱心に指導しました。

小松高校の文化祭に来ていた小学生も参加していて、楽しく交流することができました。



スライムをつくる



カライドサイクル



《生徒の感想》

- 昨年来てくれていた子もいて、もし、昨年の実験に少しでも興味を持って今年も来ようと思ってくれたなら、うれしいことだと思った。でも、今年僕達が実施した実験は昨年と同じものだったので、何か1つ増やすか内容を変えればよかったかなとも思った。来年は後輩達にこのような教訓を活かしてもらって、もっと良い行事にしていってほしいと思う。小学生に教えている中で思ったことは、小学生が、「これ、ただの水ですか?」とか、「何で固まってくるの?」と質問してきて、科学への興味の表れが見えたことだった。だから、このような貴重な機会をこれから先、増やしたり、充実していったらいいと思う。
- スライム作りを子どもに教えるという体験を通じて、わかったことがたくさんあります。青色が好きな子が多いこと、男の子はたくさんの着色料を使いたがること、女の子の作るスライムは、男の子と比べ、淡い色が多かったということ、そして、みんな、メシリンダーで洗濯のりを計るときは、意外にも慎重にやっていたということです。どんなに無邪気でやんちゃでも、やるべきことはやり、私のつたない説明をちゃんと理解してくれた彼らは、すごいと思いました。科学わくわく広場では、人にものを教える方法を学ばただけでなく、子ども達から元気ももらえました。実に有意義な2時間でした。

関東サイエンスツアー

日時：平成19年9月27日(木)～29日(土)

行き先：東京大学、筑波研究学園都市、日本科学未来館

参加生徒：理数科1年生40名

『第一線の研究者・技術者等から直接講義や実習指導を受けることにより、科学技術に関する興味・関心を高め、学ぶ意欲を育てる』という目標を掲げ、今年もサイエンスツアーが実施されます。

【日 程】

第1日 9月27日(木)

7:30 集合・出発式

7:59 小松発(はくたか5号) → 10:52 越後湯沢着

11:03 越後湯沢(とき320号) → 12:14 東京駅着

13:45 東京大学着

医学部と工学部の2グループに分かれての研修(14:00～16:30)

医学部 …… 脳神経医学専攻

工学部 …… 電気電子工学専攻、航空宇宙工学専攻

16:30 夕食およびキャンパス見学

18:30 集合 → ホテル着

第2日 9月28日(金)

8:30 ホテル発(貸切バス) →

10:00 エーザイ(株)筑波研究所着

エーザイ(株)筑波研究所での研修(10:00～11:30)

11:30 エーザイ(株)筑波研究所発 → 昼食

13:00 筑波宇宙センター着

筑波宇宙センターでの研修(13:00～14:30)

14:30 筑波宇宙センター発 →

4グループに分かれての研修

高エネルギー加速器研究機構グループ(15:00～17:00)

物質・材料研究機構グループ(14:35～17:25)

土木研究所グループ(14:50～17:10)

地図と測量の科学館グループ(14:45～17:15)

18:00 筑波研修センター着

第3日 9月29日(土)

8:30 筑波研修センター発(貸切バス) →

9:45 日本科学未来館着

日本科学未来館での研修および昼食(10:00～13:30)

13:30 日本科学未来館発(貸切バス) → 14:10 羽田空港着

15:30 羽田空港発(ANA755便) → 16:30 小松空港着

16:45 解散

詳しい内容は次号のSSHだよりにて報告します。

★科学高校との共同研究はじまる…

6月に科学協約を結んだ韓国・大田(テジョン)科学高校との共同研究がスタートします。科学高校側の提案による「古環境の復元」という壮大なテーマのもと、地層中に含まれる植物化石を利用して、気候および海水面の変動について考察していきます。科学高校の1年生4名と本校理数科2年の2名が研究をすすめる予定ですが、10月下旬に科学高校の1年生が修学旅行の行程として本校を訪問することになっていて、その際に1回目の打ち合わせを行います。その後はメールやテレビ会議システムを利用して情報を交換し、12月の科学高校訪問時、あるいは1月に科学高校が再び本校に来校した際に研究成果を発表する予定です。